

平成 29 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	ブドウ醸造用品種への垣根仕立て法の導入効果		
[要約] 垣根施設の設置費は、長梢棚露地栽培と比べておよそ87%となり、管理作業時間も38%となる。また、垣根栽培では、定植2年目から収穫可能となり早期から収量が得られる。					
キーワード	ブドウ	垣根仕立て	省力	技術部	果樹研究室

1 背景とねらい

近年、日本ワインへの関心が高まっており、ワイン醸造の原料となるブドウ醸造用品種の需要は拡大している。しかし、従来の長梢平棚によるブドウ栽培は、通常3年程度の未収益期間が発生することや、施設費等の初期投資が大きく、管理作業の習熟が必要であるため、新規参入・経営拡大が難しい。そのため、ブドウ醸造用品種に対して垣根仕立て法(樹形：ギョ・ダブル)を導入することで、早期に収量が得られる低コストで省力的なブドウ醸造用品種栽培の実証に取り組む。

2 成果の内容

- (1) 垣根栽培施設の設置費は、長梢棚露地栽培と比べておよそ87%となり、低コストでの施設設置が可能となる(表1)。
- (2) 垣根栽培では、主要管理作業時間が長梢棚栽培と比べておよそ38%となり、省力的である。特に、作業が複雑なせん定や新梢誘引などの作業が簡略化する(表2)。
- (3) 垣根栽培では、定植2年目から収穫可能となり、定植5年目には500~800kg/10aの収量となる(図1)。

3 成果活用上の留意事項

- (1) 「ケルナー」のような1果房重の大きい品種においては、着果負担軽減のために1.0房/新梢程度に着果制限をかけるのが望ましい(表3、4)。
- (2) レインプロテクションを行うことで、降雨時の果房の濡れが少なく、病害の発生軽減が期待できる(図2)。また設置時期は、6月(開花期)~7月までに行うのが効果的である。
- (3) レインプロテクションは、房のみの雨よけのため、防除等は従来通り行う。
- (4) その他栽培方法等については、「ブドウ新品種の導入による新たな加工品開発マニュアル」(H29作成)を参照する。

4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等
適応地帯：県内ブドウ栽培地帯
- (2) 期待する活用効果
ブドウ醸造用品種栽培の低コスト化・省力化が図られる。

5 当該事項に係る試験研究課題

(H25-13) ブランド化を促進する果実等の生産・加工技術の実証研究[H25-29/国庫委託]
(3000) ブドウ新品種の導入による新たな加工品開発
外部資金課題名：ブランド化を促進する果実等の生産・加工技術の実証研究(食料地域再生のための先端技術展開事業)

6 研究担当者

柳本麻衣

7 参考資料・文献

平成25~29年度 岩手県農業研究センター 果樹試験成績書(一部未定稿)

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 ブドウ栽培施設設置に係る資材費

施設名	被覆 ^{※1} 有無	資材費 (千円/10a)	苗木代 ^{※2} (千円/10a)	合計 (千円/10a)	対照比 (%)
垣根施設	被覆 ^{※3}	1,005	210	1,214	87.1
(対照) 長梢棚施設	露地	1,359	34	1,394	100
(参考) 長梢棚施設	被覆	2,580	34	2,614	—
(参考) マンスレインカット	被覆	2,297	157	2,454	—

※1 資材費は、H29.12.15現在の単価で算出。

※2 苗木本数は垣根施設200本、長梢棚33本、マンスレインカット150本で試算。

※3 簡易的な雨よけとしてレインプロテクション（プロテクションシート P0330×100m）を行った。

表2 ブドウ仕立て毎の管理作業時間（10a換算）

栽培様式	せん定	結果母枝 誘引	芽かき	新梢 誘引	摘心・ 副梢かき	単位：時間	
						収穫 ・調整	合計
垣根仕立て ^{※1}	5.2	1.1	1.7	7.2	7.9	27.7 ^{※2}	50.7
(対照)長梢棚 ^{※3}	26.4	12.0	9.6	20.4	9.6	54.0	132.0
対照比 (%)	19.7	9.2	17.7	35.3	82.3	51.3	38.4

※1 垣根仕立ての作業時間はH27、H28の平均。

※2 垣根仕立ての収穫・調整時間は、10aあたりの想定収量1.0tで算出。

※3 対照は、岩手県農業技術体系 生食用ブドウ長梢平棚栽培による。

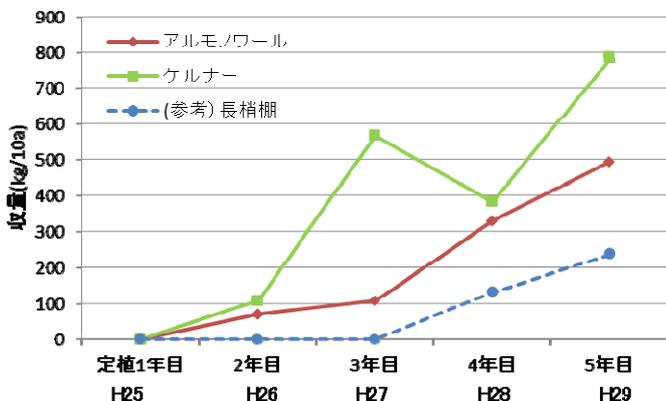


図1 垣根栽培における収量推移(10a換算)

※参考：長梢棚露地栽培「巨峰」収量（北上市）

表3 各品種の1房重の年次推移

品種	H26	H27	H28	H29
アルモワール	45	79	102	122
ケルナー	63	213	269	297

※単位：グラム

※10房の平均

表4 各品種の着房数の年次推移(摘房前)

品種	H26	H27	H28	H29
アルモワール	1.4	1.5	1.6	1.7
ケルナー	1.3	1.4	0.7	1.4

※単位：房/新梢

実証圃の栽培状況（陸前高田市）

- ・ 植栽距離：樹間 2.0m×列間 2.5m
- ・ 樹形：ギョ・ダブル
(長梢を2本左右に倒して仕立てる樹形)
- ・ 導入品種：アルモワール、ケルナー
 - ※アルモワール：耐寒性強
熟期 9月下旬～10月上旬
果房重 200g 前後
 - ※ケルナー：耐寒性強、べと病にやや弱い
熟期 9月中旬～下旬
果房重 300～400g
- ・ 簡易的な雨よけとしてレインプロテクションを行う



図2 実証圃の栽培圃場



図3 ギョ・ダブル樹形

図4 実証圃の導入品種
(左：アルモワール、右：ケルナー)